横浜市立青葉台小学校
令和４年度　学力向上アクションプラン

1　中期学校経営方針

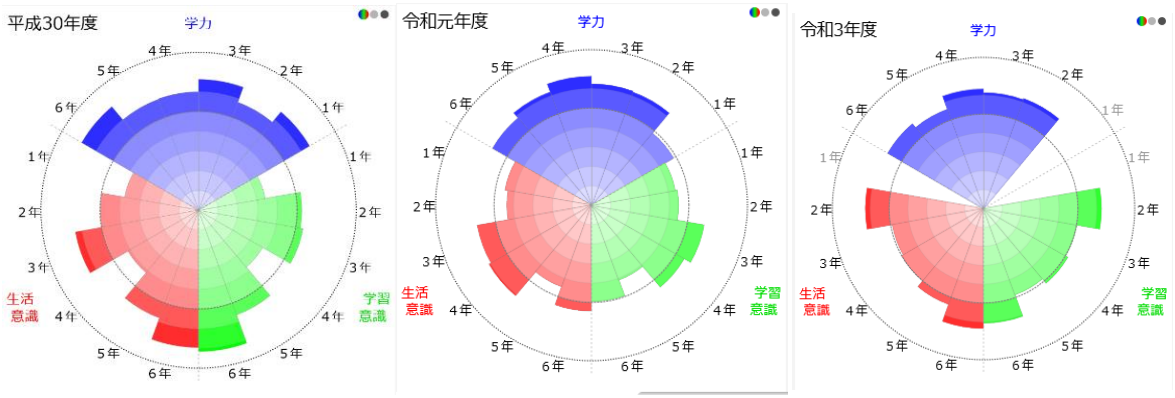
（1）学校経営中期取組目標

学 校 経 営 中 期 取 組 目 標
○学校教育目標を実現するために、活力と魅力にあふれた信頼される学校づくりをめざします。 ・一人ひとりの子どもが、学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、学力の向上を図ります。 ・豊かなかかわりを大切にして、互いの思いを伝え合うことのできるたくましい人間関係力の向上を図ります。 ・自分の生活を振り返り、課題解決に向けて主体的に取り組み、健康の保持増進に努められる実践的な態度を育みます。 ・小中一貫教育の推進ブロックや家庭・地域と連携し、社会の様々な変化に対応できる子どもの育成を進めます。 ・教職員が相互に啓発・連携する活気あふれた学校運営組織をつくります。

（2）学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野		取 組 目 標	具 体 的 取 組
確かな学力 （学習指導）		豊かなかかわりを大切にして、互いの思いを伝え合う子の育成 ～子供が自分の考えに根拠をもち、主体的に学び合う授業～	①「言葉による見方・考え方の成長」 国語科においては，言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象としている。このため，「言葉による見方・考え方」を働かせることが，国語科において育成を目指す資質・能力をよりよく身に付けることにつながることとなる。このように、「言葉による見方・考え方の成長」について研究を深めていく。 ②　言語活動の充実 各教科において言語活動の充実を図る上で，基盤となるものは言語に関する能力であり，言語能力を育成する教科の中核となるのが，国語科である。国語科には，子供が実生活や各教科等の基本ともなる国語の能力を主体的に身に付けていくことができるよう，様々な言語活動を工夫し，その充実を図っていく。
担当	研究研修部		

2　横浜市学力学習状況調査等からの実態把握



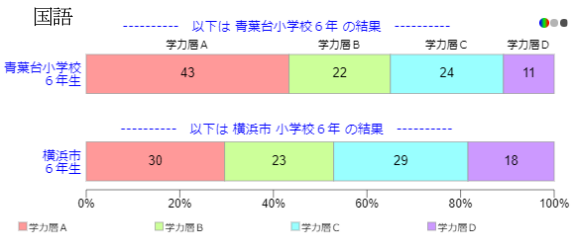
（1）学力の概要と要因の分析

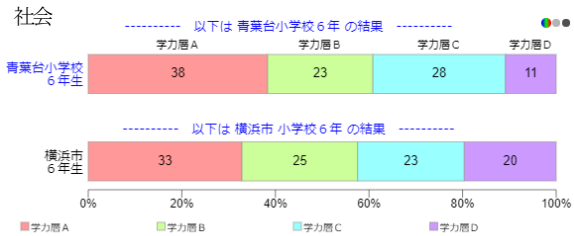
学力は、現 3,4,5,6 年は、横浜市の平均を上回っている。（※令和２年度は調査を行っていない。）

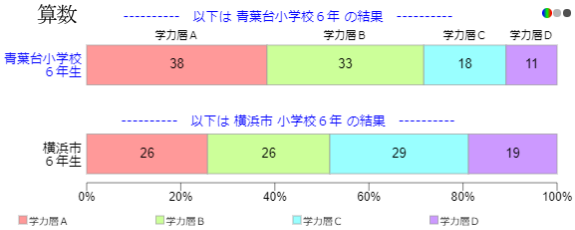
学習に関する意識は、現 3 年生は市平均を上回っている。しかし現 4,5,6 年生が市の平均とほぼ同じであるため、学年が上がっても学習に対する意識が向上していくよう対応が必要であることがわかる。

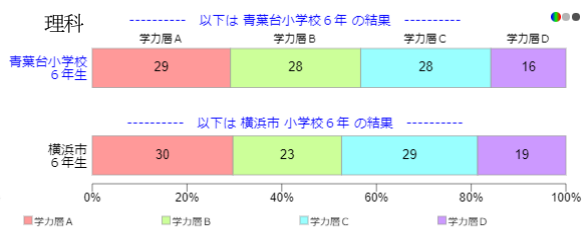
（2）　教科等の状況

〇国語科：活用力に伸びが見られ、書き手の立場や考え方に注意して読み、自分の考えとの共通点や相違点を踏まえて、考えをまとめることができている。
〇算数科：活用力に伸びが見られ、日常生活の中から事象を探したり、それを活用して物事を処理したりすることができる
〇社会科：基礎基本が身に付いてきていて、知識理解が身に付いてきている。
〇理科　：知識理解に向上が見られ、仕組みを関係付け理由を規則性から説明している。









（3）　経年変化の状況と要因の分析

学校教育目標の具現化に向けて、平成 29 年度から４年間、算数科で重点研究を進めてきた。「豊かなかかわりを大切にして、互いの思いを伝え合う子の育成」と研究主題を設定し、「問い」に焦点を当て、令和元年度には「子供が価値ある問いを問い続けることができる授業」を目指して研究を進めた。それまでの重点研究の成果や課題から、目指してきた資質・能力の育成にとって、言語活動の充実は不可欠であることが分かった。子どもが身に付ける資質・能力は、言語活動を通して身に付けることが基本である。国語科という教科の本質である「言葉による見方・考え方」を働かせ、国語で理解し、表現するといった「言語能力」がすべての教科等の資質・能力を支える基盤であることは、総則にも「国語科を要としつつ」と示されている。

そこで昨年度は、国語科において、「言語能力を育成するための学び合いの在り方」に焦点を当て、研究を進めた。その中で昨年度の研究から見えてきた成果は、以下のようなものがある。

・手がかりを示すことで言語への感度（興味）が高まったこと
・叙述に立ち返って考えることができたこと
・適切な言語活動を設定することの大切さが分かってきたこと
・ゴールを見通して単元をデザインすることができたこと
・自分の考え方の変化まで振り返ることの大切さを実感したこと
・相手意識・目的意識を明確にできたこと

課題としては

・教師側が意図して適切な言語活動を設定していく必要があること
・見方・考え方をどうステップアップさせていく必要があること
・青小としての豊かなかかわりや成長した具体の姿をイメージしていくこと
を大切にしていくことが明らかとなった。

３　令和４年度　学年・教科等としての具体的取組

子供がお互いの思いや考えを伝えながら主体的に学習に取り組み、協働の中で考えを深めていこうとすることを大切にした研究を進める必要がある。

これらを実現できるように、資質・能力ベイスの授業に取り組んでいく。単元で身に付ける資質・能力を明確にすることで、ゴールから授業を逆設計すること。子どもがどのような見方・考え方を働かせていくのかを具体的にイメージすることで、成長していく姿を捉えていく。そこで、今年度は国語科を通して主体的・対話的で深い学びの充実に向け、次のように研究主題・サブテーマを設定する。

研究主題・サブテーマ

「豊かなかかわりを大切にして、互いの思いを伝え合う子の育成」

～子供が自分の考えに根拠をもち、主体的に学び合う授業～

このような学びの実現には、資質・能力と見方・考え方で単元を描いていくことが重要になると考える。

資質・能力を明確にするために、「子どもの実態を捉え、指導事項等から単元で身に付けたい資質・能力を設定すること」「指導事項等に応じた最適な言語活動を設定すること」「身に付けたい資質・能力に最適な教材を設定すること」の三つの要素が密接に結びつくように単元づくりを行うことを大切にする。